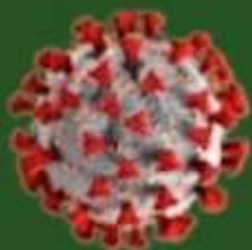


通常のワクチンの製造方法（鶏卵法）

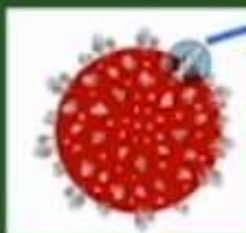


今までのワクチンの全てが鶏卵法で作成されてきた

DNAワクチン製造方法



コロナウイルス



DNA

コロナに特有の抗原部分のDNAを精製



このDNAをヒトに筋肉注射する

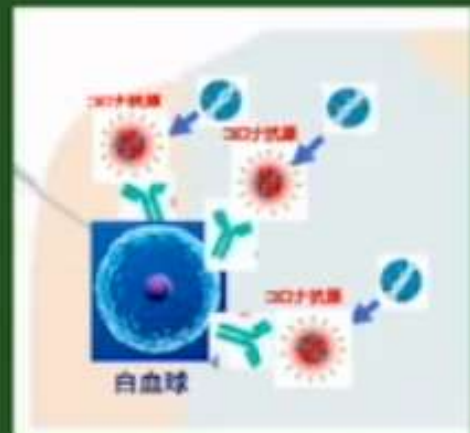
コロナウイルスに対する防御体制（免疫）の確立

コロナウイルスが侵入してくるとー

作成されていた抗体がコロナウイルス結合して、ウイルスを非活性化させる



白血球



白血球

1 : DNAの指示で、ヒトの筋肉細胞がコロナの抗原を合成する

2 : この抗原（蛋白質）に対して白血球が抗体を作成する

鶏卵法とDNA法の違い

鶏卵法



不活化・弱毒化したウイルスの抗原を接種



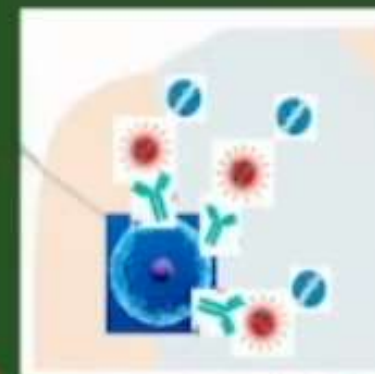
ウイルスの抗原に反応して
人体内で抗体が作成される

DNA法

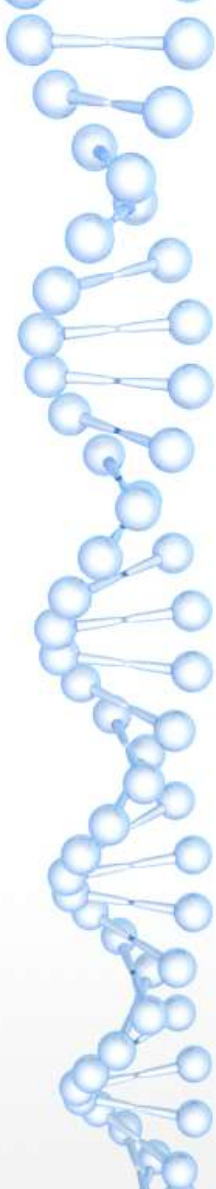


精製したウイルスのDNAを接種

体内で抗原と抗体の両者が作られる



DNAの指示で細胞自身が抗原を合成する
この抗原に反応して抗体が作成される



遺伝子法 (DNA・RNA)

鶏卵法

製造期間

6~8週間



6~8カ月

製造量

多い



少ない

鶏卵法はパンデミック向きではないとの理由で
遺伝子法が開発されつつある。

抗体の作成

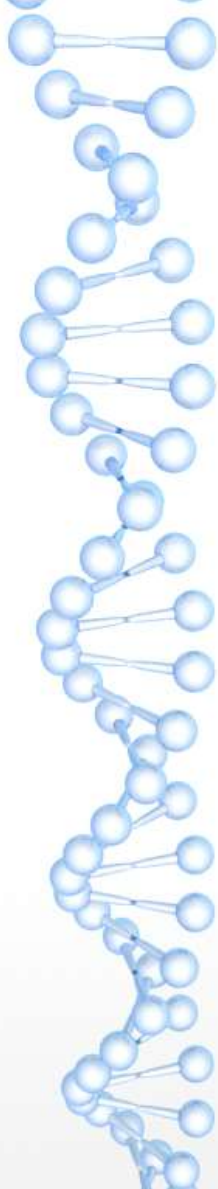
人体内

人体内

抗原の産生

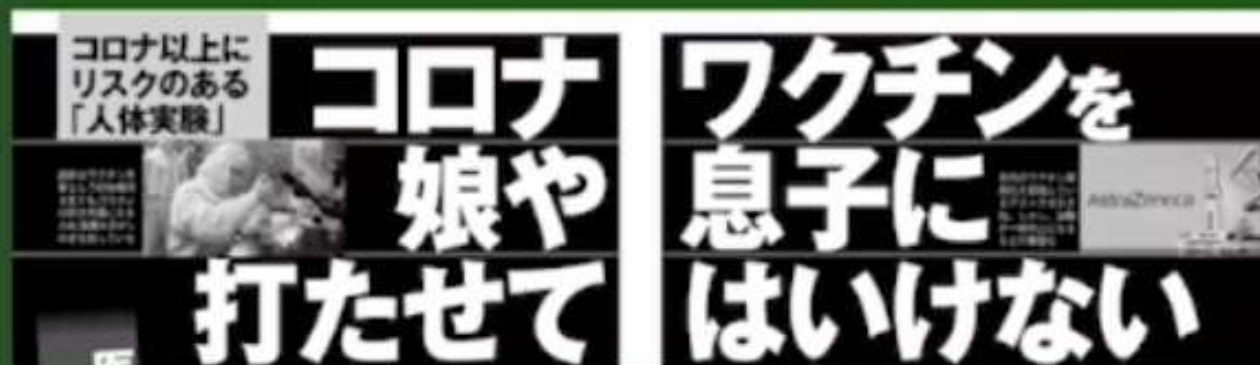
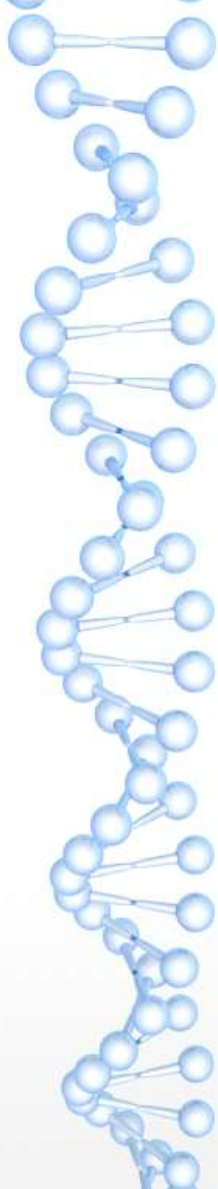
人体内

鶏卵内



『新型コロナのワクチンは遺伝子ワクチン』 =週刊現代（10月24-31日合併号）の記事から抜粋=

- 遺伝子ワクチンはこれまでのワクチンとは根本的に原理が異なります。簡単にいうと、新型コロナ遺伝子の一部を接種することで、人間の体内で新型コロナの蛋白質を作らせ、抗体を生み出そうという原理です。
- 遺伝子ワクチンはこれまで承認された例はなく、未知の領域です。仕組み自体が未知のものなので、いきなり数億単位の人間に接種した場合、何が起きるのか、予測することができません。日本が提供を受けることが決まっているアストラゼネカ社、ファイザー社、両社のワクチンはいずれも遺伝子ワクチンです。
- 遺伝子ワクチンは、これまでのワクチンでは確認されなかった疾患が起き得るのです。仮にコロナの遺伝子が人間の生殖細胞に侵入するような事態が起きれば、がんなどの疾患を引き起こす可能性もあります。



- 政府は、ワクチン接種を**全額国費負担**で受けられるようにする方針だ。
- しかし、コロナワクチンが恐ろしいのは、異変がすぐに起きるとは限らないところだ。**遺伝子ワクチンは10年後、20年後に重大な被害が起きる可能性もある。まさに「人体実験」なのだ。**
- 高齢者であれば、予防のメリットと短期的な副反応を天秤にかけ、接種するのもありだろう。だが、**将来がある息子や娘たちには決して打たせてはいけないのである。**